

日本学術会議主催公開シンポジウム

自然史教育における 植物園の役割

今日「持続可能な社会の構築」に向けて「自然との共生」や「生物多様性の保全と持続可能な利用」が重要な社会的目標となったなかで、大学教育における生物学の参照基準がまとめられた。大学が所有・管理している演習林や実験林、臨海実験所、植物園等の施設は、フィールドに直結した優れた教育の場として生かされることが期待されている。しかし、大学付属植物園が十分に評価され、生かされているとは言えない。現状改善と研究教育体制を充実のため、あるべき植物園の役割を議論する。

- 14:00 開会
- 14:10 大学教育における生物学の参照基準、植物園に期待すること
西田治文（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）
- 14:30 森の植物園：教育利用の事例紹介
植松千代美（大阪市立大学理学研究科附属植物園講師）
- 14:50 大学植物園の現状と展望
飯野盛利（大阪市立大学理学研究科附属植物園園長、教授）
- 15:30 自然のレフュージアとしての植物園
加藤 真（日本学術会議連携会員、京都大学人間環境学研究科教授）
- 15:50 生態系インフラストラクチャー：
自然環境保全再生分科会の提言とその反響
鷺谷いづみ（日本学術会議連携会員、中央大学人間総合理工学部教授）
- 16:20 総合討論
（司会）戸部 博（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）
（コメンテーター）
西 弘嗣（日本学術会議連携会員、東北大学教授）
松浦啓一（日本学術会議連携会員、国立科学博物館名誉研究員）
馬渡俊介（日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授）
- 17:00 閉会

日時：平成 27 年 11 月 7 日（土）14:00～17:00

場所：大阪市立大学理学部附属植物園

〒576-0004 大阪府交野市私市 2000, TEL 072-891-2059

参加費：無料 自然史・古生物分科会主催
近畿植物学会共催，公益社団法人日本植物学会後援